

敢當方代表ノ意中小生ヨリ内報ス。

第六章 「ジャヴァ」視察旅行ト共同委員會

「ジャヴァ」旅行感想

筆者ハ極メテ短時日ナガラ「ジャヴァ」各地ヲ巡視シテ大ニ啓發スル所ガアツタ。其感想ハ前記返電中ニ引證シタ大毎ノ記事ヲ殆ント盡キテ居ル。之ハ同新聞社ノ神田特派員ノ需メニ依リ、我々ノ感想ヲ木村顧問ガ書イタモノデ、即チ左ノ通りデアル。

長岡代表視察手記

今度ノ旅行ノ目的ハ、主トシテ在留邦人大部分ノ實情ヲ視察シテ、彼等ノ云ハント欲スルコトヲ聞カウトスルノガ、第一デアツタ。トコロガ如何ニモ三・四年コノ方ニ於ケル邦人小賣商・雜貨商ノ發展ノ狀況ガ著シイモノガアルトイフガ、コレヲ「ジャヴァ」全體ノ商業上ノ地位カラ見レバ、邦人ノ蘭印ニ於ケル經濟的進出ナド、大ゲサナ批評ハ、全ク當ラナイ。「バタヴキヤ」「バンドン」「スマラン」「スラバヤ」ノ如キ大都會ニ於テハ相當立派ニ店舗ヲ有シ居ルモ、少都市デハ支那人ノ小賣店ノ間ニ介在シ、シカモソノ數僅カニ一都市ニ一、二軒多クハ五軒位ニ過キナイモノカアル。而シテコレヲ邦人ハ、ソノ大多數ハ二十年、三十年來蘭印ニ生活シテ來テ、殆ント決死ノ覺悟ヲモツテ今日ノ基礎ヲヤウヤク築キヒクタモノテ、

コノ先マタ／＼邦人ノ小賣商、雜貨商ノ大イニ發展スヘキ餘地ハ十分アル。シカモ何ラ蘭印ニ於ケル經濟上ノ平衡ヲ破ルヤウナコトハナイノヲ實見シタ。次ニ感動シタコトハ、コレヲノ邦人カ十里、二十里ノトコロカラ子供ヤ細君マテモ引キツレテ、途上ワレラ一行ヲ迎ヘ、マタ雨ノ降ル夜半ニ辻ニ出迎ヘ、トモニ宿舍ニ會食スルヤウナ熱情振リト、彼等カ殆ント異口同音ニ、最惡ノ場合ニ於ケル最後ノ決心ヲ語リ少數ナカラモ飽迄一致シテ、コノ難局ニ處スル決意ヲ示シタコトアル。「ジャヴァ」ニ於ケル支那人ノ勢力ニ付テハ、豫テ聞キ及ンテキタケレトモ、「ジャヴァ」全土ニ亘リ、殊ニ北海岸一帶ノ大都市、小都市中テモ「スマラン」ヲ中心トスル地方ニ於ケル牢固タル地盤基礎ニハ偉大ナルモノカアル。殆ント凡ヘテノ大小都市ニオケル商店街ハ、實際上支那街ノ觀カアツテ「オランダ」ノ商店ハ「スラバヤ」「バンドン」ヲ除イテハ寥々タルモノテアツタ。土人ノ商業上ニ於ケル地位ハ、全ク大小都市ニ於ケル市場（バスサル）ヲ中心トシテノ程度テアツテ、僅ニ「ソロト」「ジョクジャ」ノ如キ自治領ニ於テ、「ジャヴァ」人ノ商店ノ存在ヲ認メルコトカ出來ルノミ。極言スレハ北海岸ノ「ジャヴァ」ノ都市ハ華僑ノ商店街ト蘭印ノ官吏會社員ノ住宅トカラ成立ツテキルトイッテモヨイ。コノ間ニ於テ日本ノ商人ノ地位ハ、ワレ／＼ノ日本ニ於テ聞クトコロトハ全ク異ツテキル。幸ニシテ日本品カ品質ニ比シ價格ノ低廉ナルカタメ一見日本店ノ繁榮シテキル觀ヲ呈スルケレトモ、「ジャヴァ」ノ一般不況ノ爲メニ今年度ノ如キハ、三年前ニ比シ賣行キカ半減シタトノ事アル。コレニヨツテコレヲ見レハ、イハユル日本ノ小賣商カ華僑ノ地位ヲ奪ヒ去ルトイフ批評ノ如キハ、全ク實情ト異ツテキルコトヲ深く感シタ次第テアツタ。更ニ「オランダ」人

ノ商業上ノ地位ヲ日本人カ奪フトイフ話ハ全ク杞憂ニ屬スル。「オランダ」店ニ至テハ、其取扱品ハ最初カラ何ラ競争ノ位置ニハナイ、從ツテ正面衝突シテキルモノテハナイノテアル。更ニ大商人即輸入業者ニ至テハ、過去十年來日本ノ輸入商カ日本品ノ取扱ヒノ爲ニ、ソノ支店ヲ「スラバヤ」「スマラン」「バタヴィヤ」ニ開設シタコトカ、或ハ「オランダ」側ノ少數ノ大輸入業者トノ間ニ多少ノ競争カ行ハレル結果ニナツテキルカモ知ナイカ、實質上ニ於テモ依然トシテ大「オランダ」商店カ、過半数ノ輸入ヲ取扱ツテキル。從ツテソノ不振ノ原因ハ、日本輸入業者ノ競争ノ結果テハナク、「ジャヴァ」ニ於ケル經濟上ノ不況ニ原因スルニ外ナラスト觀察スル。「ジャヴァ」ニ於ケル主要産業ニ付テイヘハ、ソレハ自ラ砂糖問題ニモ入ルコトニナルノタカ、ワレ／＼ノ旅行中、沿岸至ルトコロニ砂糖工場カ存在シ聞クトコロニヨルト、ソノ數三百ニ達スルトイフ。シカモ、煙突ニ煙ヲ上ケテキタモノハ、ワツカ五本ノ指ニモ足ラナイ狀況テ、サラニ工場ヲ圍繞スル耕地ハ、甘蔗畑ハ意外ニ少ク、アルヒハ米作、アルヒハ馬鈴薯、玉蜀黍ノ栽培ニ隨分變更サレテキル狀況テアツタ。何テモ最近三、四年前ニ各砂糖會社カ競ウテ工場ノ擴大増設ヲ計リ、生産能力ノ増加ニ腐心シタカ、間モナク不況ニ襲ハレ慘憺タル有様ニナツタトイフコトアル。コレヲ以テ見レハ、コノ砂糖ノ世界的不況ニ對スル「オランダ」ノ砂糖業者ノ準備カ、整頓セラレ、用意カ周到テアツタトハ斷シテイフコトカ出來ナイ。サラニ著シク感シタノハ、我臺灣ノ工場ニ比較スルト、工場全般ノ規模至ツテ小サク、イハユル集中統制ニヨル生産費ノ節約トイフ點ニ著シク缺ケテキルコトテアツタ。次ニ「ジャヴァ」ノ工業全體ニ關シテ感シタコトハ、各種産業ノ基礎トナル工業原料カ到底日本ノソレニ比ス

ヘクモナイホド高價ナコトテ、現ニ「ボルネオ」ニアレタケノ石油ヲ産シナカラ、「ガソリン」ノ値段ノ如キハ日本ノ數倍、工業用「アルコール」ノ如キハ、アレタケノ砂糖ヲ産シ、從ツテ「アルコール」ノ生産カ多カルヘキニ拘ラス、ソノ値段カ日本ノ十倍、更ニ最モ目ニ付タノハ、工場又ハ鐵道ニ於テ、立流ナ用材アルヘキ「チーク」材ヲ燃料ニ供シテ居ル點テ、コレニハ全ク一驚ヲ喫シタ次第アル。此外我々ヲ驚カセタコトハ、多々アツタカ、特ニ商工業ノ發展ニ最モ重要ナ機關タル鐵道並ニ「トラツク」ノ運賃等カ、内地テハ想像出來ヌ程高イコトモ我々ノ注意ヲ引イタ點テアル。要スルニ「ジャヴァ」ノ産業殊ニ工業ニ付テハ、今ヤ一大轉換期ニ入ラントシテキルノテハナカラウカト思フ。日本ト蘭印トノ貿易經濟關係ノ不況打開モサルコトナカラ、將來ニ於イテハ現狀カラ離レテ大ニ考究シ、兩國ノ經濟關係ヲ積極的ニ密接ニナシ得ル事態カ遠カラス來ルヘキモノテアルト自分ハ確信スル。

共同委員會

専門家委員會(共同委員會ト公稱ス)ハ六月二十九日ニ第一回ノ會合ヲ爲シ、七月九日一應ノ研究ヲ終ツタ。其梗概ハ左記報告ノ通りテアルカ、此委員會テ蘭側ノ質問ニ答ヘタ二三ノ事項ヲ後日先方ガ揚足取的材料ニ使ツタコトハ、尠ナカラズ其品位ヲ低下サセタ感ジガスル。

日蘭兩主席代表ニ提出スヘキ統計及資料ニ關スル共同委員會報告

一九三四年六月二十七日、日蘭代表一般委員會決議ニ依リ一ノ特別委員會設置セラレタリ、其ノ任務ハ

一、重要ナル統計資料ニ關シ了解ニ到達シ

二、兩代表部ノ活動範圍ニ屬スヘキ現行法律、規則及命令ヲ包含スル各種資料ニ關シ明確ナル考察ニ到達スルヲ援助スル

ニアリ

本委員會ニ左記ノ委員任命セラレタリ(氏名略之)

本委員會ハ直ニ其ノ活動ヲ開始シ、六月二十九日、七月三日、五日、六日及九日ノ五回會合セリ又六月二十日勝守通譯兼祕書ハ和蘭側専門委員「テイージエー、オーデルキンヘン」ニ會見セリ

委員會會合ハ極メテ和氣霽々裡ニ進行セリ

第一回會合ニ於テ質問書ヲ交換シタリ、尤モ改訂シタル質問書ノ寫ヲ本報告ニ添附セリ

双方ニ對スル質問書ノ事項決定後、蘭印側専門委員及日本側一委員ヨリ、日蘭貿易統計ニ付夫々其ノ概要、編纂方法、貨物ノ評價方法及特徴ヲ大略説明セリ。第一回説明ニ次テ疑問ノ諸點ニ付更ニ相互ニ補足的説明ヲ爲セリ、和蘭側ヨリハ日本貿易統計上製產國及仕向國ノ決定方法ニ付特ニ質問アリタリ。

右説明ニ依レハ貨物カ日本諸港ニ輸入ノ際仲繼港經由ノ事實不明ノ場合少ナシトセサルモ、大部分ノモノハ其ノ仲繼如何ヲ知ルコトヲ得。而シテ如斯場合ニ於テハ其ノ貨物ハ產出國又ハ製造國ヨリノ輸入トシテ統計表ニ記載セラレ、然シ保税工場ニ移入セラルル貨物ニ於テハ(保税工場内ニ於テハ製造又ハ加工セラルルニ因リ本來ノ產出國不明トナル)產出國又ハ製造國ヲ知ルコト特ニ困難ナリ、保税工場ニ移入セラレタル貨物

ハ日本内地ノ消費ノ爲ニ輸入セラルルモノヲ除キ普通ノ輸入貿易統計ヨリ除外セラレ居レリ。

保税工場内ニ於テ使用セラルル外國原料品ニハ輸入税ヲ免除セラル。此ノ特權ハ一ヶ年ヲ限り許サル但シ延長セラルル場合アリ。又此等工場内ニテ使用セラルル原料品ニ關スル統計ハ直ニ提出スル能ハサルモ、特定商品ニ付移入申込書ヲ基礎トシテ特別ニ調査ヲ行フトキハ之ヲ知り得サルニ非ラス。精糖工場ハ現在保税工場ニ非ス、精糖工場ノ大部分ノモノハ輸入原料糖ヲ精製糖ト爲シ之ヲ法規ノ定ムル期間内ニ輸出セリト大藏省官吏ニ依リ認定セラレタルトキハ、其ノ輸入原料糖ニ對スル輸入税ヲ免除セラルル特權ヲ有ス。尙此等ノ説明ニ依リ

一、蘭印ニ於テハ輸出品ノ價格ハ蘭印諸港本船渡價格ヲ、輸入品ノ價格ハ保税倉庫渡價格即チ税關通過ノ際ノ價格ヲ基礎トスルコト

二、日本ニ於テハ輸出品ノ價格ハ日本諸港本船渡價格ヲ、輸入品ノ價格ハ輸入ノ際ノ到着價格即チ多クノ場合日本諸港ニ於ケル運賃保險料込價格ヲ基礎トスルコト

判明セリ

更ニ以上日本側ノ説明ニ依リ一切ノ商品ノ統計ニハ價格ハ必ス表示セラレ居ルモ、數量ハ總量、純量、容積、個數、長サ等各種ノ單位ヲ以テ表示セラレ居ルヲ以テ、自然輸出入總數量ハ之ヲ得ラレサルコト判明セリ。

日本側ヨリハ製產國及仕向國ニ關スル點及輸出入品ノ價格決定方法ニ付特ニ質問アリタリ。

和蘭側ハ之ニ對シ製產國及仕向國ハ夫々買附國及賣込國ヲ原則トシテ示スコトヲ説明シタリ。

蘭印ノ仲繼國經由貿易ハ全然不明ナリ。輸出品中蘭印ヨリ仕向國不明ニテ積出サルルモノ Optional トシテ統計ニ示サレ居レルカ、之ハ歐洲向輸出ニ於テ最も重要ナリ。

輸出入品價格ノ決定ニ付テハ三方法アルコト明ニセラレタリ即チ

A、或種商品ニ付テハ財政長官カ三ヶ月毎ニ税關用トシテ發行スル公定價格表アリ

B、一九二五年純然タル統計上ノ目的ノ爲貿易統計改善ノ際採用セラレタル特別價格表アリ、同表作成ノ爲千分ノ二、五ノ小額統計税賦課セラル

C、以上兩表ニ記載ナキ商品ニ對シテハ輸入者ノ仕入書ニ記載セラルル價格カ公定價格評價ニ使用セラル蘭印側質問ニ對スル回答左ノ如シ

一、A 及 B 要求アリシ統計ヲ提出セラレタリ、但シ委任統治ノ下ニ在ル南洋諸島ノ貿易ハ不詳ナリシニ付除外セリ

二、A 及 B 要求ノ資料ハ蒐集ノ方法ナキ爲回答セス

三、問題ノ新聞記事發見セラレス、從テ確答シ難キモ、日本側專問委員ノ意見ニテハ斯ル記事ハ根據ナシ、尙相互ニ本件調査ヲ進ムヘキコトヲ約セリ

四、附屬書類ノ如キ陳述アリタリ、但シ最近ノ進展ニ付修正又ハ追加スルコトアルヘシ

五、通商擁護法（貿易調節及通商擁護ニ關スル法律）ハ外國ノ措置ニ依リ日本ノ通商カ阻害セラレタルトキ外國ノ執リシ其ノ措置ヲ中止又ハ廢止セシメンカ爲ニ發動セラルモノナルコト説明セラレタリ、日本

ハ外國ノ措置ノ爲本法ヲ發動スルコト已ムヲ得サル場合ニ限り之ヲ發動スルモノニシテ、本法ニ依リ日本ノ通商ヲ助長セントスルヲ目的トスルモノニ非ラサルコト強調セラレタリ

尙本法法文（日本文）一部蘭印側ニ交付セリ

六、日本ニ於テハ邦人會社ト外國人會社トノ間ニ課税ニ關シ法律上差別待遇スルカ如キコト絶對ニナシ

七、本項質問ハ海運問題ニ關聯シ而シテ日本側ハ海運問題ヲ本會商ノ範圍外トスルヲ以テ回答セス

八、本項質問モ第七問ト同性質ノモノナルヲ以テ本會商ノ範圍外ナリ、然レトモ日本對外輸出貿易ニ關聯

スル限リノ質問ニ對シテハ第四問ニ對スル補足の説明ノ意味ニ於テ若干ノ説明加ヘラレタリ、即チ運賃

補助金ナルモノナキコト

但シ定期航路就航船ニ對シ政府ノ課スル經濟的負擔ノ一部ヲ補償スル爲定期航路補助金ノ存在スルコト及定期航路補助金ノ交付ヲ受クルコトアリトスルモ蘭印向荷物運賃ハ日本汽船會社並ニ爪哇支那日本線汽船會社カ組織セル運賃同盟ノ規則ニ依リ支配セラルルコト指摘セラレタリ

九、臺灣及朝鮮ヨリ日本内地ヘノ米穀ノ移入ハ制限ナシ。但シ政府ハ米穀ノ一時的巨量ノ流入ヲ防止シ且一年ヲ通シテ移入ヲ平均セシムル爲、米穀出廻期ニ於テ之ヲ買上保管シ得ルカ如キ權限ヲ有スル旨ノ陳述ヲ以テ回答セラレタリ。米穀ノ輸入ハ政府ノ許可ナクシテ之レヲ行フコトヲ得ス。米穀輸入ニ對スル現在ノ制限ハ一九三三年十一月ヨリ米穀統制法ニヨリ之ヲ實施セラレ居レリ。尤モ之レヨリ以前ニ米穀法ニ依リ一九三一年七月一日以降輸入制限ヲ爲サレ居リタリ

十、日本及臺灣ニ於ケル在米高表ヲ交付セリ。產米高ニ關スル表ハ追テ送付方約セリ
十一、植物油ノ消費及輸入推定高ハ此等植物油ノ主要用途ニ關スル説明ト共ニ回答セラレタリ
尙植物油原料ノ輸入及製造、動物性油脂及魚油ノ現狀並ニ其ノ用途ニ付質問アリ、追テ資料ノ提供ヲ約セリ

日本側質問ニ付テハ次ノ如ク蘭印側ヨリ回答セリ。

A 一、日本商品ヲ取扱フ國籍別輸入業者數ハ現在割當制ヲ實行スル商品ニ關スル限り判明シ居レハ之レヲ交付ス。其ノ他ノ商品ニ付テハ正確ナル數字ナキモ經濟省ニ於テ推定數字丈ケニテモ提出スル様努ムヘシ
二及二A、蘭印ニ輸入セラルル日本品及其ノ他ノ商品ノ輸入業者及卸商ノ國籍別割當ハ不明ナルモ右割合ノ推定ヲナスヘシ。爪哇及「マヅラ」並ニ他ノ主要都市ニ於ケル小賣商ノ數ニ付テモ同様トス。但シ極メテ概算ノ外ナカルヘシ

三、蘭印内ニ於ケル制限品四種ノ需要年額ニ付テハ正確ナル數字ナシト回答セラレタリ。需要年額ノ概念ハ輸入年額及生産年額ヨリ得ラルヘシ、持越ニ付テハ調査ナシ

四、制限令適用後ノ制限品ノ國別輸入實績ニ關スル統計提出セラレタリ

五、本問ハ元來「一九三三年ニ於ケル制限四品目ノ通常需要量ヲ超ユル不正常ト認メラルル輸入量」ニ付質問セラレタルモノナルトコロ、和蘭側ヨリ「不正常」ナル語ニ付テ説明ヲ與ヘラレタリ、即チ「不正常」ナル語ハ蘭印公文書中ニ使用セラレス「過剩輸入」(overmatige invoeren)ナル語ヲ使用ス、此ノ語

ノ公式説明ハ與エラレサリシモ和蘭側首席委員ニ依リ過剰ナル語ハ相對的ノ場合ニ用ヒラルルモノニシテ輸入實績ヲ他ノ事項ニ比較シテ用ヒラルルノミナルコト説明セラレタリ、其ノ例トシテ

A 消費力ノ減退

B 適當ナル市價ノ維持又ハ設定ノ必要

C 國內産業ノ存續ヲ可能ナラシムル必要

D 他國ヲ犠牲ニシテ一國ノ市場進出

ノ場合輸入過剰ナリト云ヒ得ヘシ。實例ヲ以テセハ「セメント」、「ビール」ノ割當制度ハB及Cノ場合ニ當リ、先染「サロンハ」Cニ該當シ、「キャンブリツク」其ノ他晒綿布類ハDニ當ルモノナリト説明セラレタリ

由是觀之或商品ノ輸入カ過剰ナルヘシトハ唯單ニ統計ニ據リテノミ決定シ得ルモノニ非ラス。市場ノ現狀及商況ノ將來ニ關シ詳細ニ知悉シタル後初メテ之レヲ決定シ得ルモノナルヘシ

尙「不正常」ナル語ハ正規ノ貿易狀態ト懸隔アル輸入ニ付テノミ使用シ得ラルヘキモノナランモ、右ハ特殊ノ場合例ヘハ政府ノ採ラントスル措置又ハ其ノ他異常ナル事態豫想セラルル際ニ於テノミ例證シ得ラルルモノナリ

第三問及第五問ニ付テハ一九三二年一月以降ノ制限品目、月別輸入表ヲ提出セラレ且重要ナル諸變遷ニ付説明セラレタリ

六及九、統計提出セラレタリ

七、十及十二、發給セル「ライセンス」ノ區分ニ關スル數字ニ付テハ目下經濟省ニ於テ作成手配中ナルヲ以テ出來次第提出セラルヘシ

八、蘭印内ニ於ケル「サロン」ノ產額實數ハ不明ナルモ不取敢委員會ノ席上其ノ概算ヲ示セリ、尙和蘭内ノ「サロン」生産實數ハ目下照會中ナリ

十一、晒綿布ハ蘭印内ニ於テハ其ノ生産ナシ、和蘭ヨリノ輸出高ハ接到シタルヲ以テ近日提出スヘシ十三、「ビール」ノ蘭印ニ於ケル生産高、生産能力、輸入高及消費高ニ關スル資料提出セラレタリ、和蘭ノ國內消費及輸出高ニ對スル資料ハ手許ニ在リ

十四、爪哇及「マヅラ」ノ輸出入統計ハ數日中ニ日本代表部ヘ提出セラルヘシ、爪哇及外領分ニ對スル統計概要ハ提出済ナリ

十五、一九三二年分統計ハ提出済、一九三三年分ハ近ク提出ノ運トナルヘシ

B 一、商業團體ノ法律上ノ地位ニ付テハ別添ノ通陳述セラレタリ

二、三ヶ月毎ニ發行セラルル公定價格表 (Prijscourant) ノ作成方法ニ付詳細ニ説明セラレタリ

尙本表ニ示ス平均價格ノ算出方法ニ關シテハ之ヲ財政省ニ照會ノ上追テ提出セラルルコトナルヘシ

公定價格表 (Prijscourant) 及統計用價格表 (Prijls list) ニ示ス價格ト「インボイス」値段トノ比較ヲ一九三三年日本ヨリノ主要輸入品ニ付テ示スコト約セラレタリ

日本側ヨリ綿製品ノ種別ニ付質問アリ又經濟長官カ「ライセンス」發給ニ際シ特別條件ヲ附シタルコトアリヤ否ヤニ付質問アリタルモ此等ハ追テ書面ヲ以テ回答セラルヘキコトトナリタリ

結 論

兩代表部委員ハ本委員會ノ有益ニシテ各々有用ナル資料ヲ獲得セルコトニ意見一致ス、尤モ或種ノ資料ハ未提出ニ屬スルモノアリト雖モ本委員會ノ事務ハ之ヲ以テ一應完了シタルモノト思考セラル然レトモ兩代表部委員ハ今後會商中資料交換ノ必要アルヘシト認メラルルヲ以テ、本委員會ハ直ニ正式ニ解散セサル方可然トノ希望表明セラレタリ。斯クテ今後必要ニ應シテハ豫メ兩首席代表ノ合意ニ依リ本委員會ハ何等豫備手續ヲモ經スシテ再會合ヲ爲シ得ルモノナリ

一九三四年七月十二日「バタヴキア」市ニ於テ本報告書二通ヲ作成シ之ニ署名ス

共同委員會日本側首席委員

(署名) 早 間 恒 雄

共同委員會和蘭側首席委員

(署名) ジエー、フアン、ヘルデレン

共同委員會日本側提出質問

A 統計

一、蘭印内ニ於ケル邦品取扱輸入商及卸賣商ノ國籍別推定員數如何

二、蘭印ヘノ日本品ノ總輸入及蘭印總輸入ニ對スル輸入商及卸賣商ノ國籍別推定取扱高如何出來レハ右各商ノ各國別取扱歩合ヲ示サレタシ

二A 爪哇及「マヅラ」ニ於ケル國籍別小賣商推定員數如何

右不明ノ場合ニハ爪哇内主要都市ニ於ケル推定員數ヲ示サレタシ

三、蘭印ニ於ケル四種制限品即チ「ビール」、「サロン」及「ルトリック」、「セメント」及晒綿布ノ毎年ノ需要高(正確ナル資料ナクハ推定)如何、「サロン」及晒綿布ニ付テハ政府制限令ノ品種別ニ分類詳細ヲ示サレタシ

四、制限令適用後ニ於ケル「ビール」、「サロン」及「ルトリック」並ニ晒綿布ノ國別輸入數量實績如何

「サロン」及晒綿布ニ付テハ政府制限令ノ品種別ニ分類詳細ヲ示サレタシ

五、一九三三年中日本ヨリ蘭印ヘ輸入セラレタル「セメント」、「ビール」、「サロン」及晒綿布中

A 輸入税引上ノ豫想

B 政府制限措置ノ豫想

C 邦品ノ安價ニ依リ

(一) 從來他國ヨリノ輸入ニ代リタルモノ

(二) 新ニ邦品ヘノ需要喚起シタルモノノ推定輸入増加程度如何

四種ニ付キ各別ニ回答セラレタシ

六、一九三〇年以降「サロン」(制限品種別ニ依ル)國別輸入數量及價額如何

七、「サロン」輸入許可「ライセンス」

A 輸入業者國籍別

B 政府制限令規定ノ品種別ニ再區分

ノ現行割當高如何

八、和蘭及蘭印各別ノ「サロン」生産高及生産能力如何但シ制限令實施直前十二ヶ月分

九、一九三〇年以降晒綿布ノ制限品種別輸入數量及價額(國別)如何

十、晒綿布輸入許可「ライセンス」

A 輸入業者國籍別

B 政府制限令規定ノ品種別ニ再區分

ノ現行割當高如何

十一、和蘭及蘭印各別ノ晒綿布生産高及生産能力如何但シ制限令實施直前十二ヶ月分

十二、「ビール」輸入許可「ライセンス」

A 輸入業者國籍別

B 政府制限令規定ノ品種別ニ再區分

ノ現行割當如何

十三、和蘭及蘭印各別ノ「ビール」生産高及生産能力如何但シ制限令實施直前十二ヶ月分

十四、一九三三年ノ貿易統計提出セラレタシ

十五、一九三三年ノ各國重要輸出入品約二十五種ニ付國別輸出入數量及價額如何但シ直接及間接貿易ヲ含

ムモノトス

B 其ノ他

一、バタヴィア輸入商組合及其ノ他各地商業組合ノ法律上ノ地位如何

二、「ブライス、コトラント」ノ作成及其ノ標準價格決定方法説明セラレタシ

尙質問事項追加スルコトアルヘシ

共同委員會和蘭側提出質問

一、A 一九二七年以降日本國ニ屬シ又ハ其ノ管治スル一切ノ地域ヨリ蘭印ヘノ直接及外國港(例ヘハ「シ
ンガポール」)經由輸出品重量(又ハ他ノ單位)及價額ノ統計

B 一九二七年以降蘭印ヨリ日本國ニ屬シ又ハ其ノ管治スル一切ノ地域ヘノ直接及外國港(例ヘハ「シ
ンガポール」)經由輸入品重量(又ハ他ノ單位)及價額ノ統計

二、A 蘭印ニ於ケル邦商ノ蘭印輸出入

B 日本ニ於ケル蘭商ノ日本輸出入

上ノ割前ニ關スル一九三〇年以降ノ日本側統計

三、一九三四年五月十五日發行ノ大阪朝日及大阪毎日新聞紙上ニ於ケル閣議ニ於テ商品輸出ノ基礎タル現在ノ *forb* ニ代フル *ceif* ヲ以テシテ日本輸出貿易組織ヲ變更スルノ方針ニ決定シタリトノ政府筋ヨリ出テシト見ラルル記事ハ和蘭代表部ノ注意ヲ惹キタル處(註)和蘭代表部ハ此ノ計畫ニ付充分ナル説明アランコトヲ希望ス

註 英文報道ハ原文ニ比シ不完全ナル様思ハル

四、A 日本ニ於ケル輸出組合ノ組織、目的及運用如何又政府ノ指導勢力 (influence) 及其ノ指導方法如何

B 蘭印内日本輸入組合ノ組織目的及運用如何又政府ノ指導勢力及其ノ指導方法如何

C A 及 B ニ述ヘシ組合間ノ關係如何

五、現行日本通商擁護法ノ目的如何

六、日本ニ於テ内外會社ニ對シ課税上(例ヘハ會社税)法律の差別アリヤ

七、一九三〇年以降左記航路ニ於ケル日本國籍船舶及和蘭國籍船舶ノ輸送シタル荷物ノ割前ヲ重量又ハ容

積ニテ示ス統計如何

A 日本ヨリ蘭印向

B 蘭印ヨリ日本向

(直接及「シンガポール」其ノ他經由ヲ指定セラレタシ)

八、日本政府ト日本船會社トノ左記諸點ニ於ケル關係如何

A 運賃補助金

B 古船解體補助金

C 其ノ他ノ補助金

D 運賃及航路上ニ及ホス政府ノ勢力 (influence)

九、日本ヘ

A 内地以外ノ日本地域ヨリ

B 外國ヨリ

米穀ノ移輸入ニ關スル現行制限令ノ程度、方法及實施時期如何

十、日本内地、臺灣各別ノ過去五ヶ年間在米高統計如何

十一、A 日本ノ動植物油脂ノ需要及其ノ供給先如何

B 日本ニ於テ使用セラルル植物油ノ産業上ノ用途、其ノ程度及種類如何

日本側質門 B 一ニ對スル回答トシテ「フアン、ヘルデレン」教授ノ説明

在「バタヴキヤ」輸入商組合ハ「バタヴキヤ」商業組合ノ一構成分子ニシテ、蘭印ノ輸入業ノ利益ヲ増進センカ爲メ特設セラレタルモノナリ。而シテ蘭印ニ於ケル各商業組合ハ何レモ一八五一年ノ法律ニ基キ制定セラレタル蘭領印度總督令ニ據リ設立ヲ認可セラレタルモノニシテ、一特殊利益團體トシテ印度企業家聯合 (「B

dische Ondernemers Bond) ニ其ノ代表者ヲ送り居ルモノトス。尙是等商業組合ハ一八六三年十月二十九日ノ總督令(官報第四百四十四號)ニ據リ設立セラレタル各公認商工會議所ト協力シ、且同一事務局ノ下ニ活動ス。本企業家聯合ハ一九二九年法令公報附錄第一一六九號ヲ以テ一般商工業事項ニ關シ政府ノ公認諮問機關トシテ指定セラレタリ。是等商業組合カ常ニ稅關用公定價格表ノ決定又ハ關稅及消費稅等ノ賦課ニ關スル諸規則制定ニ付キ政府ニ進言セルカ如キハ政府及商業組合ノ協力ノ一例トシテ舉クルヲ得ヘシ。右説明ニ依テ明ナル如ク蘭印ニ於ケル各商業組合ハ蘭印政府ト商人トノ間ノ公的連絡機關ノ一ナルヲ以テ、公認諮問機關トシテ認メラルヘキモノナリ。

和蘭側質問第四ニ對スル日本側委員ノ回答

(A) 輸出商組合

本邦ニ於テハ一九二五年九月以來輸出商ニ關スル組合法ノ規定アリ、輸出商組合ハ本法ニ依リ組織セラルルモノニシテ法人格ヲ有ス。

本組合ハ同一種類ノ輸出品ノ輸出業者又ハ同一市場ヲ目的トスル輸出業者ヨリ成リ、海外市場ノ調査、見本品ノ頒布、注文ノ割當、商品ノ検査、數量又ハ價格ノ調節等共同利益ヲ増進スルヲ目的トス

本組合ノ設立ニ付テハ商工大臣ノ認可ヲ要ス。本組合ノ事業資金ハ組合員ノ出資金ヨリ成リ有限責任ナリ

本組合ハ組合ノ定款ニ依リ所屬組合員ヲ拘束シ得ルハ勿論商工大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テハ非組合員ニシテ同一商品ヲ取扱フ業者ニ對シテモ組合ノ定ムル取締又ハ制限ニ服セシムルコトヲ得

又輸出商組合ハ定款ニ違反シタル組合員ニ對シテハ過怠金ヲ課スル事ヲ得

非組合員ニシテ一定ノ取締制限ニ服スヘキ事ヲ商工大臣ヨリ命セラレタル者カ右命令ニ違反シタルトキハ商工大臣ハ罰金ヲ課スル權限ヲ有ス

(B) 蘭印ニ於ケル輸入商組合

現在蘭印ニ於テハ社交の意味ニ於ケル團體以外ニ邦人輸入業者又ハ邦品輸入業者ノ組合存在セス

唯近來本邦ニ於ケル陶磁器輸出業者ハ其ノ輸出組合ノ機能ヲ圓滑ナラシムル目的ヲ以テ蘭印ニ於ケル日本陶磁器輸入業者ニ勸說シ輸入商組合ヲ組織スルノ計畫ヲ進メ、以テ日本陶磁器ノ取引ヲ輸出商組合員ト輸入商組合員トニ限定シ「アウト・サイダー」ノ出現ヲ防止シ取引ノ安定ヲ計ラントシタリ

右輸入商組合ハ輸入業者間ノ私契約ニ基キ結成セラルル組合組織ニシテ、從來蘭印ニ於テ本邦陶磁器ノ輸入ニ従事スル者ハ其ノ國籍ノ如何ニ拘ラス加入シ得ルコトトシタリ

(C) 輸出商組合ト輸入商組合トノ相互關係

Bノ項ニ説述セルカ如キ輸入商組合カ成立シタル場合ニ於テ本邦輸出商組合トノ關係ニ付テハ當業者ノ意圖ハ次ノ點ニ在リシモノト思料セラル。

「輸出商組合ト輸入商組合トノ間ニ契約ヲ締結シ相互ニ組合間ノ輸出數量又ハ輸入數量等ヲ定メ且兩組合所屬組合員間ニ於テノミ取引ヲナスコトトシ、違反者ニ對シテハ制裁(例ヘハ除名處分等)ヲ以テ臨ムトキハ兩國ノ輸出入業者ハ輸入市場ノ實情ニ即シ數量、價格等ノ適當ナル調節ヲ爲シ得ルコトトナリ、輸入國ニ於

ケル輸入制限其ノ他複雑ナル法令等ノ取締ヲ要セスシテ當業者間ノ自治ニ依リ輸出入統制ノ目的ヲ達スルコトヲ得ヘシ」

第七章 各種派生問題

派生問題概観

「バタヴィヤ」上陸以來我方ノ爲セル工作ノ一斑ハ前記ノ通りテ、此攪亂サレタ地歩立直シノ爲メカ否カハ知ラヌガ、蘭側ノ策動モ大ニ趣ヲ異ニシテ來タ。其梗概ヲ記セハ

(一) 海運問題ニ關シ蘭國政府ハ之ヲ會商ノ議題中ニ加ヘンコトヲ要求シ、帝國政府ハ反對意見ヲ持シ、何等解決ヲ見スシテ會商ハ開カル、ニ至ツタガ、「ランネフト」代表ハ一般委員會ヲ海運問題ヲ會商ノ議題トセンコトヲ要求シ、其後モ頗ル執拗ニ本問題ノ上程ヲ要求シ、我方ハ常ニ反對主張ヲ繰返シタ。先方ハ飽迄通商航海兩問題ノ關聯性ヲ強調シ、海運問題上程セラレサルニ於テハ會商ノ續行不可能ナリト斷言スルニ至ツタカ、我方ノ需メニ應シ協定事項ノ輪廓ヲ示シテ來タノデ、帝國政府ハ之ヲ研究ノ上、會商トハ引離シ、並行的ニ海運問題ヲ協議スルニ同意シ、九月八日最後案ヲ提出シ、同月十八日和蘭側之ヲ全部受諾シ、更ニ十一月二十九日ニ至リ民間會商ヲ神戸ニ於テ開催スルニ異存ナキ旨ヲ通告シ、茲ニ海運問題ニ關スル手續上ノ經緯ハ一段落ヲ告ケタ。

(二) 此間七月二十五日蘭印政廳ハ突然陶磁器輸入制限令ヲ發布シ、其理由トシテ本邦側ガ擅ニ陶磁器輸入